

狭山の元気 発見

躍

いきいき狭山人
ひと

不老川にホタルが飛ぶ そんな日がくればと願っています

初夏の夜、淡く幻想的な光を放ちながら舞うホタル。最近ではテレビや本でしか見たことがないという方もいるのではないのでしょうか。そのホタルを卵から成虫になるまで自宅で飼育しているのが、堀兼にお住まいの金子茂子さん。4年前に友人から30匹もらったとき、子どもごろホタルがビンの中で光っていたのを思い出しました。そして、せっかくだから近所の子どもにも見せてあげたいと飼いはじめました。失敗と経験を重ねながら、年々数も増え、昨年産んだ卵からは、何と5千匹もの幼虫が生まれました。

ホタルが卵からふ化するのは6月。冬を越して4月ごろまで約10か月もの間、水の中で過ごすから、やっと羽化するため土に上がります。一生の大半を水中で過ごすため、いつも水を替えてきれいにしなくてはなりません。ふ化したばかりの幼虫は体長1ミリほどしかなく、一緒に流してしまっただこともあったそうです。また、えさになる巻貝のカワニナが市内にいないため、毎月、坂戸や越生まで捕りに行かなくてはなりません。ひさまで水につかるので、冬場は大変ですが、ホタルのことを考えると全然苦にはならないとほほえみます。こうして一生懸命に世話をしているホタルを、金子さんの毎日の楽しみです。夜の8時から12時ごろまでが一番きれい。たくさんホタルが光ると、まるで宝石箱を見ているみたいだから、手をかけた分、ひときわ美しく映るのでしよう。



金子茂子さん
(ハイケボタルの人工飼育)

く約1か月の間に150人の方が金子さんの家を訪れ、中には「今年はどう？」と問い合わせてくる人もいます。子どもが来ると手に乗せてあげますが、手の上で光るホタルを見る子どももの目も、うれしくてキラキラ輝き、金子さんはその笑顔を見るのが何よりの喜びです。

仕事の合間にできるだけ時間を作って世話をしている金子さんは、家族の理解と協力のおかげ。でもホタルのことを考えると丸一日家を空けてられないんです。

最後に「不老川でホタルが飛ぶよつになればいいですね。その日までがんばります」と夢を話してくれました。



体長わずか1cmほどのハイケボタル。一斉に光ると、まるで宝石のよう

ホタルを通じて人の輪が広がっていく
楽しみにしてくれている人がいるから
もっと頑張らなくてはと思います

オピニオン

皆さんの「声」をお寄せください。



6月17日に警備員と合同で行った地域防犯パトロール

地域の防犯は人の輪が大切
そのつながりが犯罪のないまちに

地域の防犯は人の輪が大切だと思います。2年ほど前、近所の家が空き巣に入られたことがありましたが、それをきっかけに、地域は自分たちで守ろうと、安心・安全のために主婦が先頭に立ち、みんなが協力して自発的な地区内のパトロールが始まりました。また、私は子ども達をはじめ、地区内で一人でも多くの人にあいさつをすることを心掛けています。初めは「おやっ」という顔で返事をしなかつた子も、回数を重ねるにつれ、あいさつを返してくれるようになりました。

「こうして日ごろの行動が地域の活性化につながるのではないだろうか。隣近所につきあいには防犯だけでなく、阪神・淡路大震災のときにも隣近所が助け合ったという事例

が数多く報告されているように災害時にも役立ちます。すべてに市に頼るのではなく、しかし、バックアップは受けながら、自分たちの地域は自分たちで守ることが必要だと思います。そしてそれは何よりも自分を守ることにのみならず、事件や事故の起こらないまちにつながることを考えています。

中川幹雄さん(中央在住・67歳)

市からの回答

貴重なご意見をいただきありがとうございます。

市では、地域を中心にした防犯・防災への取り組みは重要なことだと考えています。空き巣やひったくりといった犯罪が増加する多摩市と狭山地方防犯協会では警備会社に委託し、6月から専門の警備員によるパトロールを行っています。また、中川さんがお住まいの東急人間川自治会でも行ったように、ご希望があれば自治会などご合同でパトロールを行い、危険箇所などを説明する防犯指導も行っています。こうした積み重ねが、安心して暮らせるまちづくりにつながり、犯罪の抑制や地域の防犯意識の向上が図られると考えています。

皆さんのご協力をお願いします。

担当・交通防災課

好きな言葉 おはようございます
世界一親しみの気持ちが変わるから

A ssistant L language T eacher



Myron Jon Megaloconomos
ミロン・ジョン・メガロコノモス
(東中学校勤務)

オーストラリア出身
平成15年から狭山市の
ALTとして勤務
趣味は詩やエッセイを
書くこと、音楽鑑賞(小
田和正など)

I have been in Japan for almost 3 and a half years now. It only seems like yesterday that I came to Japan. Living in a foreign country gives me the opportunity to reflect upon my life, country and family. I think most of us do not fully appreciate life and family as much as we can. Living with your family sometimes allows us to take them for granted. But, when you live away from your home country, you soon realize the importance of family and the relationship that you have with them. I often just sit and think about my family and friends in my country. Even though I cannot be with them, they are always in my mind and thoughts, making me feel closer to home and them. I say to you, make the most out each day and wake up with a smile.

私が来日してから約3年半がたちますが、つい昨日のこのようになります。外国で生活していると自分の人生や国、家族のことをよく考えるようになります。私たちは何気なく家族と暮らしていて、それが当たり前で家族のことなど気にしない時があります。しかし、家から遠く離れて生活すると、家族や家族との絆の大切さがわかります。私はよく家族や祖国の友だちのことを考えます。彼らと一緒にいることができなくても、彼らはいつも私の心や考えの中に入っています。だから自分の家庭や友だちをより近くに感じることが出来ます。皆さん、毎日を精一杯生きてください。そうすれば笑顔で目覚めます。

(英文の要約)